

6. 体育研究会研究テーマとそれをもとにした支部のテーマ

【研究会テーマ】

「心と体を育てる体育学習 めあて学習の充実によって、
運動の楽しさを味わえる体育学習を目指して」
～「気付き・考え・活動する」を通して、誰もが運動の楽しさを味わえる授業づくり～

研究領域

器械運動

高学年

マット運動

「心と体を育てる体育学習 めあて学習の充実によって、運動の楽しさを味わえる体育学習をめざして」
～「気付き・考え・活動する」を通して、誰もが運動の楽しさを味わえる授業づくり～

研究の方向性と研究の進め方

育成を目指す資質・能力

思考力、判断力、表現力等

「自己と仲間のよさや課題を見付け、伝える力」

育てたい子どもの姿

「自己と仲間のよさや課題を見付け、伝え高め合う姿」

自己と仲間のよさを見付ける

仲間との関わりの中で、自分や仲間のよい動きや考えに気付く。

自己と仲間の課題を見付ける

運動の行い方に対する困り感から、自己の（仲間の）課題に気付く。

伝え合う

思考し判断したことを、言葉や文章、動作などで表したり理由を添えて伝えたりする。

前向きに学習に取り組む

課題の解決に向けて、仲間と協働し、活動しようとする。

自己と仲間のよさや課題を見付け伝え合う体育学習

～ 考えを共有する活動を通して ～

考えを共有する活動

- アーティスティックマット演技の創作
- 思考を促し、考えを引き出す言葉かけ

<共有する活動から期待できること>

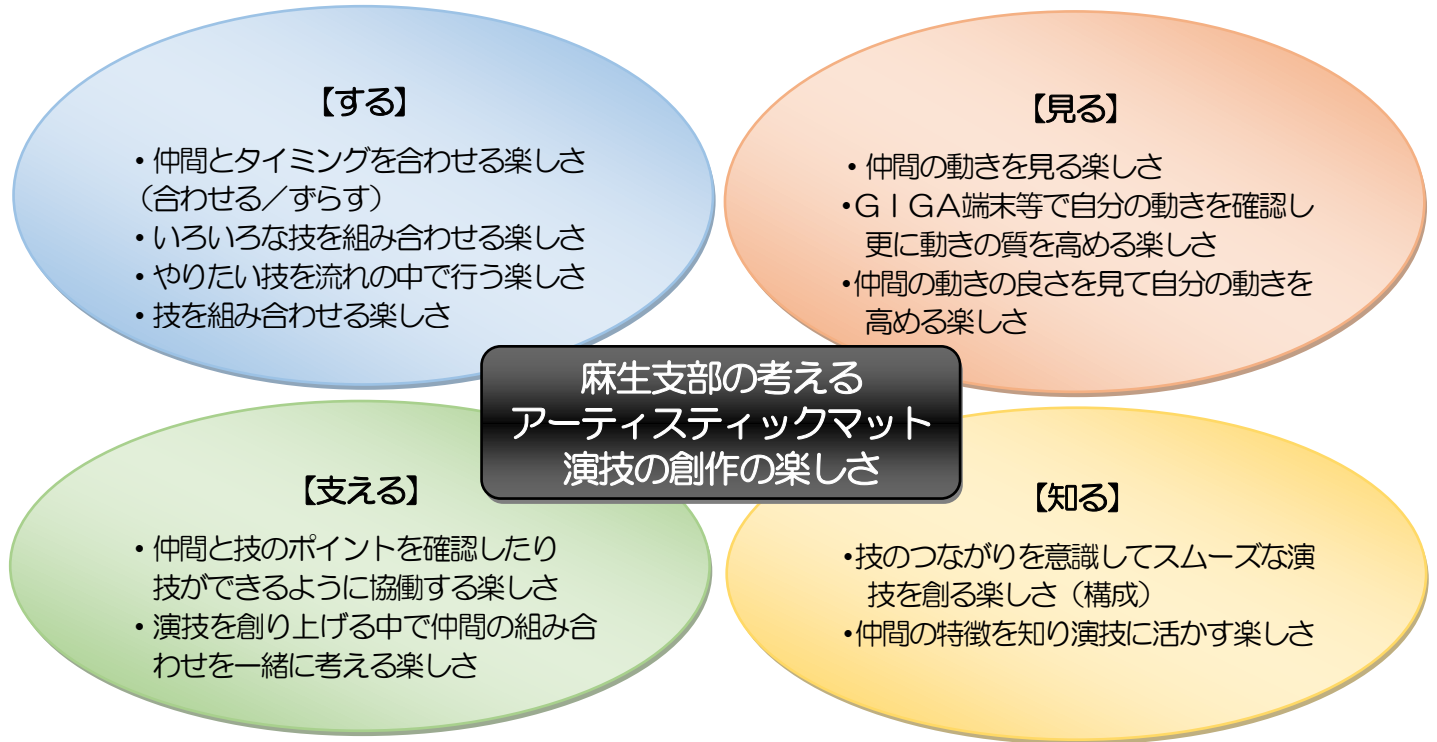
- ①仲間からヒントをもらえること
- ②自分の考えを広げたり、新しい考えを生み出したりできること
- ③安心して学習に取り組むことができること

着目する児童

- 運動が苦手と感じている児童
- 活動に意欲的でない児童
- 仲間との関わりがあまりない児童
- +
- 受容感（運動有能感）の数値の低い児童
 - ・運動をしているとき、先生が励ましたり応援したりしてくれます
 - ・運動をしているとき、友だちが励ましたり応援したりしてくれます
 - ・一緒に運動をしようとする友だちがいます
 - ・一緒に運動する友だちがいます

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力

7. 支部でめざす子供の姿に迫るための手立て



(1) 言葉かけ (いつ/どんな場面/どのような言葉で/期待する子供の姿)

○学習の流れに沿ったオープンクエスジョンな言葉かけ

《単元前半 ～やってみる～》 技のできばえ/技のポイントの確認しながら、一つ一つの動きを楽しむ

技のポイントを 確認する場面	「どんなポイントを意識して取り組んでいるかな？」(自分/友達)	○ポイントを意識して技に取り組む姿 ○友達の動きから、自分に必要な技のポイントを見つけようとする姿
めあてを意識し て取り組む場面	「できばえをアップするために、どの場を選んで、取り組んだらいいかな？」	○技の系統表を確認しながら、動きや場を選ぶ姿 ○動きのポイントを意識しながら、場を選ぶ姿

※自分が取り組みたい技に挑戦していくものの、めあてと異なる場を選んでいたり、けがにつながるような難しい技に挑戦していたりする場合には、個別に言葉かけを行う。

《単元中盤 ～広げる～》 技を繰り返したり、組み合わせたりしながら、連続した動きを楽しむ

技の繰り返しに 取り組む場面	「グループで取り組むときは、どんな技が繰り返してきそうかな？」	○自分が繰り返してできる技を選ぶ姿 ○技のつながりを意識して取り組む姿 ○友達の動きを見てアドバイスする姿
技の組み合わせ に取り組む場面	「技を組み合わせる時は、どんな技を選んだらいいかな？」	○技の進行方向や場を考慮して技を選ぶ姿

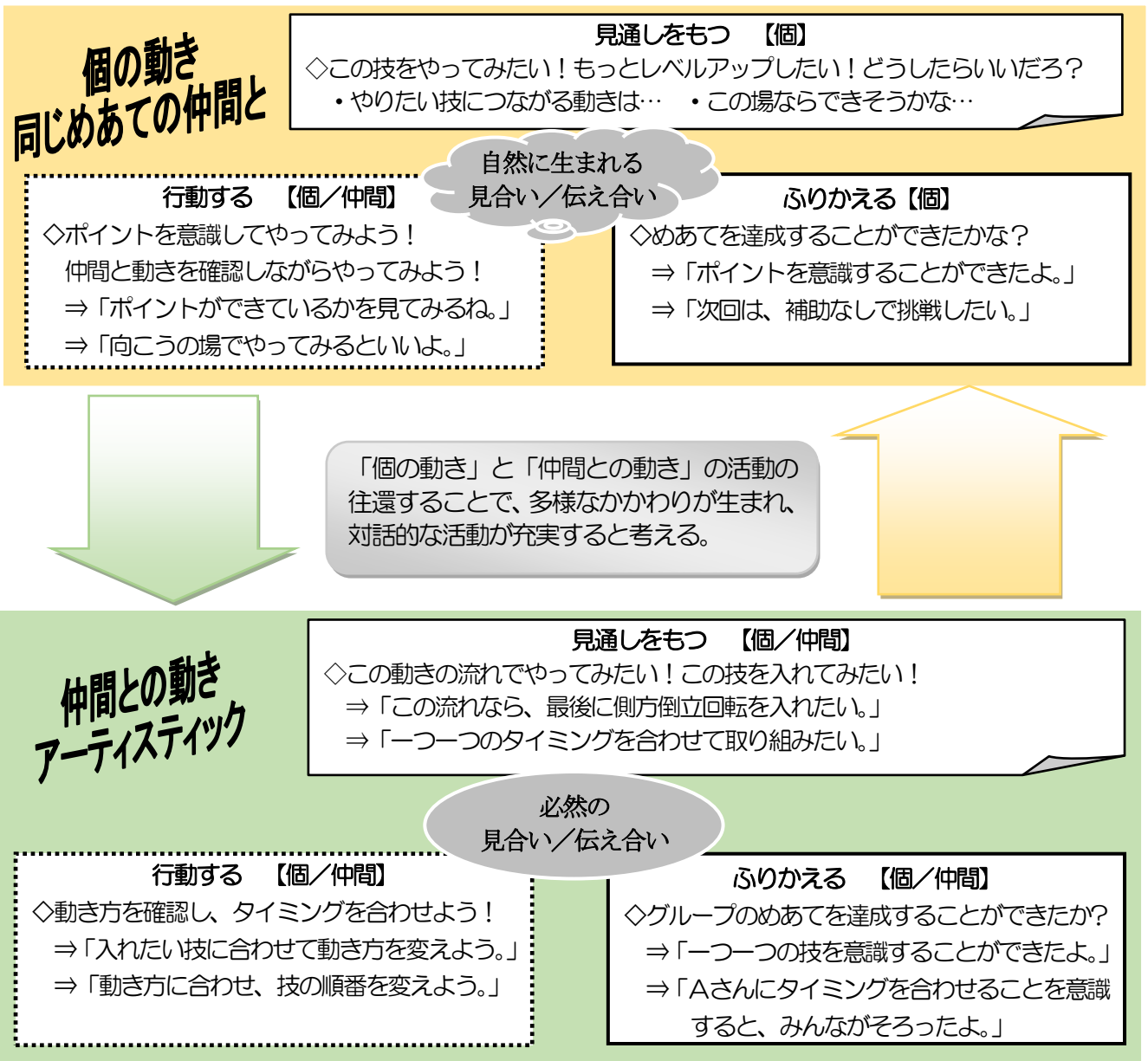
※個の連続技を行う際に、技と技のつながり、方向転換の際の動きは教師が提示する。

《单元後半 ～ 深める ～》 技のできばえを高め、アーティスティックマットを楽しむ

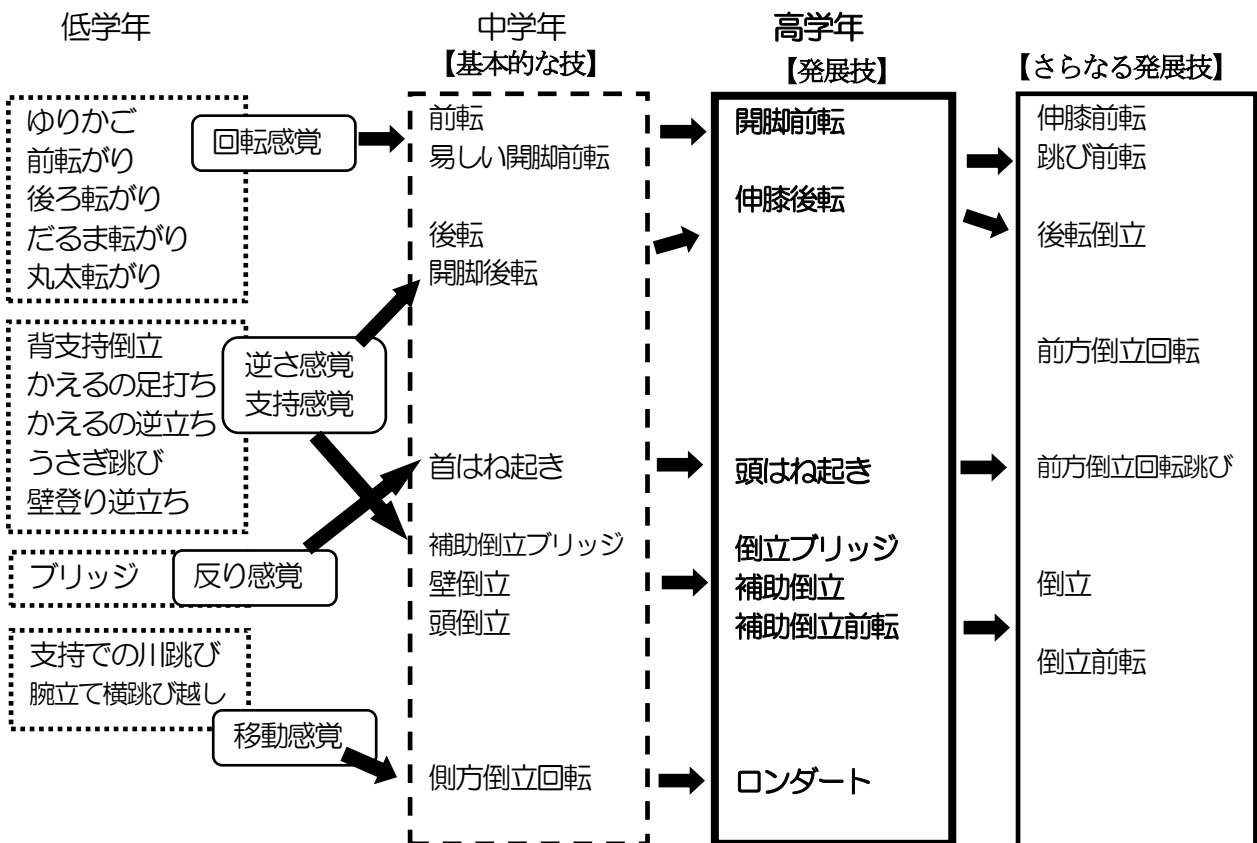
友達と動きを合わせる場面	「動きを合わせるためにはどうしたらいいかな？」 「どうしたらより動きがそろって見えるだろうか？」	○みんなでタイミングを合わせる姿 ○友達の動きから技の組み合わせを考える姿 ○大きさや動きの速さで、技のタイミングを調整する姿
友達と動きをずらす場面	「ずらす動きをスムーズに行うために、どうすればいいかな？」	○友達の動きをよく見てタイミングを合わせる姿 ○友達の動きに合わせて、適切な技を選ぶ姿

※グループの基本的な動き方については、教師が提示して、その中から選ぶようにする。

(2) 友達と高め合う関わり方 (対話的な活動の充実)



□技の分析 技の系統



- 子供たちに「技の系統」を伝えることで、めあてを設定しやすくした。また、めあての達成に向けて、より意識して技に取り組んだり、達成の方法を工夫したりできるようにする。
- 「中学年の技」は、安定してできるようにし、「高学年の技」は自分の力と技の系統を意識した上で、取り組んでいくことを子供たちへ伝える。
- 技の系統を知ること、場を選んだり、仲間へのアドバイスがしやすくなったりすると考える。

□学習カード 学びの見通し

見通しをもって取り組むことができるよう、単元全てにおいて学習カードを用いる。また、毎時間の流れや意識すべきことを可視化して伝える

6年 マット運動 ①

1. 準備 (シャツイン・はだし) 5分
2. 「今日の流れ」を知る 5分
技：前転・後転・開脚後転・開脚前転・伸膝後転
<今日のめあて>
安定した前転・後転の行い方を知ろう!
(回転系の技を上手に行うポイントを知ろう)
3. 技につながる運動 5分
(しゃがみ立ち・ゆりかごジャンプ・アンテナ・かえるの足入れかえ)
4. やってみるタイム① 10分
5. 「やさしい場」を知る (坂道・細マット・段差) 5分
6. やってみるタイム② 10分
7. ふりかえり・片付け 5分

**身だしなみ
真剣さ
向上心**

□感覚づくり 慣れ/感覚づくり

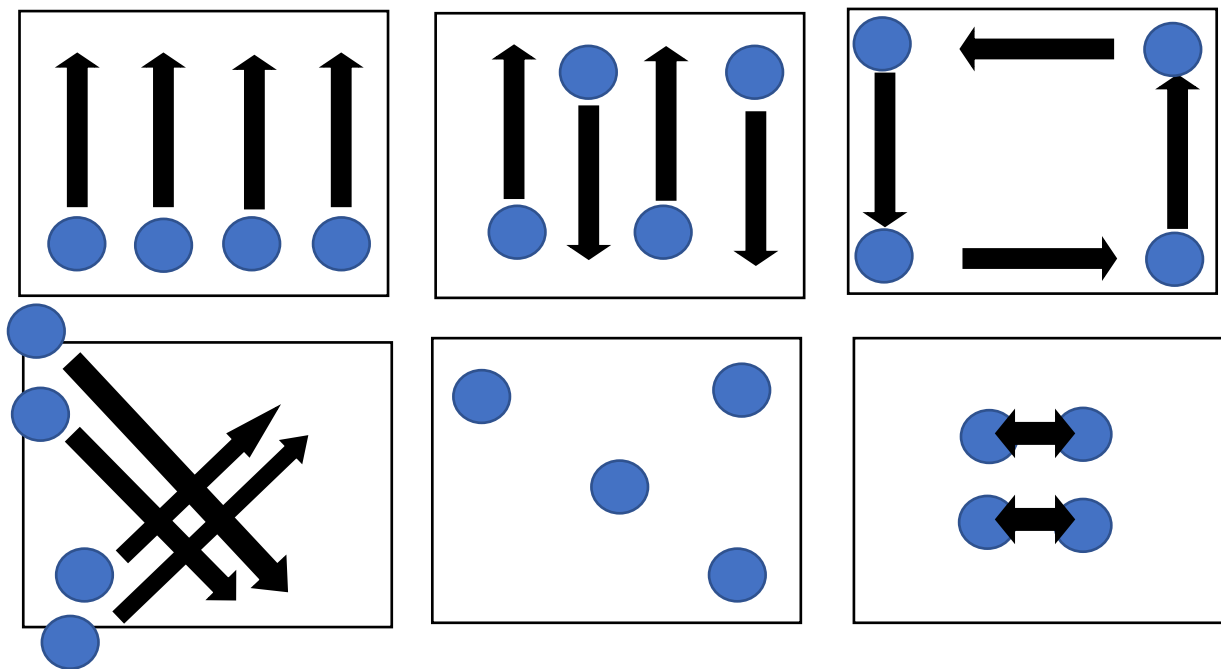
「技につながる運動」の行い方や意図（感覚づくり）をしっかりと伝える（毎時間、体感できるように）

- ・しゃがみ立ち：技の始めと終わりの姿勢である
- ・ゆりかご：目線を下げ、背中を丸めることで、スムーズに回転することができる
- ・ゆりかごジャンプ：ジャンプ後にしゃがみ立ちの姿勢でピタッと静止することを意識する
- ・アンテナ：アンテナを折り、足先がマットに着いたらすばやく踵を尻の方へ引き寄せ、その勢いで立つ
- ・かえるの足入れ替え：静かに丁寧にを行うことで腕支持が意識でき、側方倒立回転の感覚につながる

□アーティスティックマット 仲間と必然の高め合い

「アーティスティックマット」へ関心や意欲が向くように、動画の視聴や動きのパターンの提示を活用して伝える

- ・単元に入る直前のタイミングで「男子高校生の新体操」と「小学生低学年男女混合のシンクロマット」の動画を視聴したり、単元中盤に入る前のタイミングで「教師によるマットクエストのデモンストレーション」の動画を視聴したりする時間を作り、イメージできるようにするとともに、共通認識を図る
- ・パターンはシンプルなもの6種類程度を用意し、選んだり工夫したりできるようにする



□単元構想 学習の見通し

	1	2	3	4	5	6	7
個 ⇒ 集	アーティスティックマット						
	技の確認 (ポイント/できれば)		回転系 / 巧技系		回転系 / 巧技系		
			流れ / グループ		グループ (アーティスティック)		

(3) 場 □場の工夫例

坂道の場 (前転・後転・開脚前転・開脚後転)



踏み切り板で坂道をつくる。
勢いがつき、回りやすくなる。

細マットの場 (開脚前転・開脚後転)



細いマットを中央に置く。
手を着いて立ちやすくなる。

目線の場① (壁倒立・補助倒立・補助倒立前転)

紅白玉を置くことで、目線や手を着く位置を意識したり目安になったりする。見続けることが大切。



段差の場 (伸膝前転・ロンダート)

マットを重ねて段差をつくる。少しずつ段差を小さくしていき、感覚をつかめるようにする。



目線の場② (開脚前転)

紅白玉をいくつか置き、見続けることを意識することで、マットに沿って頭頂部を前へ押し出す動きになる。



山の場 (側方倒立回転)

テープを山型に貼り、着手と着地の位置の目安とする。少しずつ角度を広げ、側方倒立回転に近づける。



○それぞれの場の意図や活用法を確認し、思考しながら場を選んだり、場を作り変えたり(置き方・高さ・位置など)していくとよいことを子供たちに伝える。

※全体像・・・サイズ感、方向転換